道徳通信

ひだまり

令和５年12月１５日（金）
足立区立中川東小学校
道徳通信　第８号
校長　豊田　純子
道徳教育推進教師　前田　康介

『節度，節制』とは？

今回号では，本校の道徳授業における３つ目の重点指導内容である『生命の尊さ』について解説をします。

生命は大切であること、大切にしなければならないことは誰しもが理解しています。ですが、ニュースでは生命を大切にしていない人々の行動が報道されているのが現状です。

小学校段階で、生涯生命を大切にする心を育むため、生命の価値について、子供たちと何を考えたらよいのでしょうか。

≪『生命の尊さ』に関する低・中・高学年の捉え≫

低学年 １・２年生	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
中学年 ３・４年生	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
高学年 ５・６年生	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

【低学年】

生きているからこそできることを考えさせ、生きていることのすばらしさを実感させるとともに、自分の生命を見守ってくれている存在に気付かせることが大切！

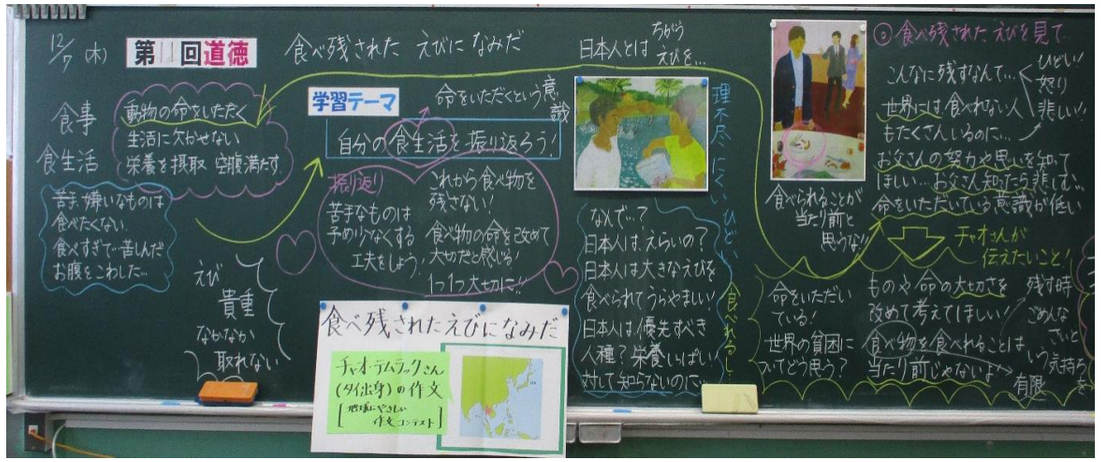
【中学年】

生命が家族や多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることを理解させ、一生懸命に生きようとする思いを高めることが大切！

【高学年】

生命は多くの生命とのつながりがあること、生命の誕生の喜びや死の重さなど、様々な視点から生命のかけがえのなさを理解させることが大切！

◇6年生の道徳の時間◇



＜令和5年12月７日　前田学級＞

教材名：『残されたえびになみだ』

主題名：ものの価値　（授業のテーマを「主題名」と表します）

この教材は、大学進学のために来日したタイ出身のチャオ・テムラックさんが日本人の食文化に対して感じたことを「地球にやさしい作文・活動報告コンテスト」に出品したものです。チャオさんはえび養殖業の家庭に育ちました。そのえびを食べようとしたとき、父から「それは日本人のために大きく育てたえびだ。」と言われ、小さなえびを渡されます。しかし実際に日本で見たのは、パーティーで出るえびのフライがたくさん残されている光景でした。それを目にし、チャオさんの目には涙がこみあげてきます。そして、チャオさんは作文を通して、「いただきます。」「ごちそうさま。」と、口に出している言葉の意味を改めて考えてください、と訴えかけました。

授業では、「大きく育てたえびは日本人のためのものだ、と父に言われたときのチャオさん」について考えました。「なぜ？日本人はえらいのか」といった理不尽さや「日本人は大きなえびを食べられてうらやましい。」といった気持ちを想像しました。また、食べ残されたえびを見たチャオさんの姿からは、「お父さんやお母さんの努力を知ってほしい。」や「命をいただいている意識が低い。」など、食べ物を平気で残していることへの怒りや悲しみを感じ取りました。

授業の終わりには、自分の食生活を振り返りました。「改めて、食べ物の命を大切だと感じた」、「苦手なものは予め少なくする工夫しよう」、「ひとつひとつを大切にする」などといった考えが児童から出されました。チャオさんの作文を通して、命をいただいていることについて深く考えた６年生。この気付きを、今後の生活で大切にしていってほしいです。